松山陣屋（宇陀松山陣屋）（指定無）（宇陀市大宇陀春日）

　宇陀松山藩（うだまつやまはん）は、大和国に存在した藩。藩庁として松山（奈良県宇陀市大宇陀）に陣屋が置かれた。

藩史

関ヶ原の戦いの功績により福島高晴が 3 万石余で伊勢国長島から加増転封されて立藩した。高晴は 1615 年の大坂夏の陣で豊臣氏に内通した嫌疑をかけられて改易され、織田信雄が大和国と上野国両国内に合わせて 5 万石を与えられて入封した。その際、天下人であった織田信長の子であるという所以から国主格も与えられた。

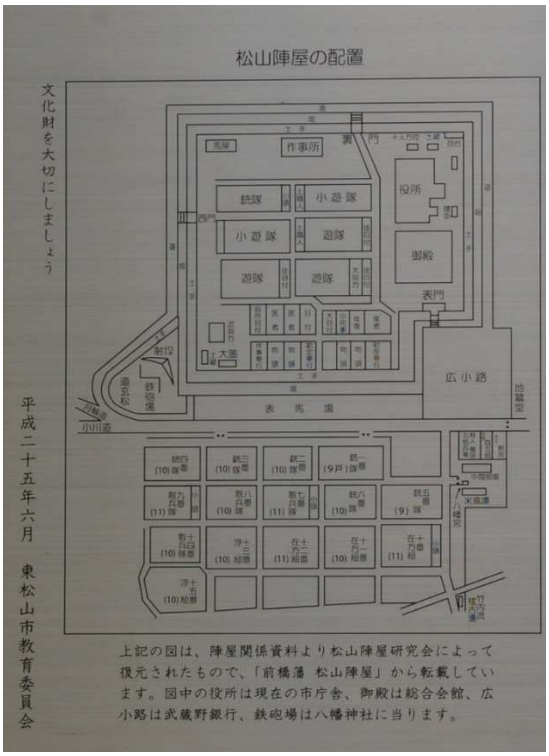
信雄は上野の所領を四男の信良に与え、自身は隠居領として大和 2 万 8000 石を領した。1630 年に信雄が死去すると、大和の所領は五男の高長が継いだ。その後、長頼・信武と続くが、藩内に混乱が起こり信武は自殺した（宇陀崩れ）。信長の血統であるということを重んじられて、信武の子・信休への家督相続こそ認められたが、所領を 2 万石に減らされた上で丹波柏原藩へ減移封された。国主格として扱われていた待遇も、このときに剥奪された。宇陀松山藩はこれをもって廃藩となった。

Wikipedia による

宇陀市大宇陀区には、戦国時代に「宇陀三将」と称された秋山氏が古城山に秋山城を築き本拠地とし、 集落を形成していた。

天正１３年（１５８５）に秋山氏が追放された後、豊臣家配下の大名が交代で入城し、慶長５年（１６００）の関ヶ原の合戦後、 福島正則の弟福島孝治が城主となり、松山城と改名した。

元和元年（１６１５）、孝治の改易にともない松山城は破却され、 織田信長の次男信雄が宇陀を所領し、宇陀松山藩として藩政がはじまる。織田氏は、山麓に「御上屋敷」や「長山屋敷」を設けた。

元禄７年（１６９４）家臣団の内紛に端を発して４代目藩主信武が家臣２人を殺害のうえ自殺した為、翌８年（１６９５）領地を没収され、 藩主となっていた信休は減封の上、丹波柏原へ転封となり、 以後天領となった。

『「宇陀市教育委員会等によるパンフレット（道の駅宇陀路大宇陀にて入手）」、「西口関門説明板」他参照』